

委員会の体制等について

■事務局（高山市環境政策課）からの提案

＜委員会の進め方＞

自然エネルギーによるまちづくり検討委員会において、脱炭素先行地域づくり事業（小水力発電・木質バイオマス熱電併給、普及啓発等）の着実な推進について課題整理や検証等の意見交換を深めていただくとともに、進展する多種多様な再生可能エネルギーの動向や状況、活用の可能性等について、学習、意見交換、議論、提言等をいただきながら、市は2050 市全域ゼロカーボン及び再エネによる地域循環型社会の実現の加速化を目指すものとする。

＜委員会の方向性＞

脱炭素の目標達成に向けて、様々な再生可能エネルギー等の供給や知見を活用していくため、構成委員を追加する。

また、レジリエンスの視点が重要であるため、レジリエンス（防災・強靱性）を意識したエネルギーの地産地消を委員会で検討する。

＜政策提言（資料3別紙）への対応＞

- ・提言の趣旨のうち、産官学労言士等による連携体制の強化に取り組む。
- ・バイオコックス、ペロブスカイト太陽電池等の新技術導入によるビジネスモデル創出の可能性を探る。

＜委員会の構成委員の追加等＞

- ・レジリエンスに着目した再生可能エネルギーの導入手法の知見がある行政機関の担当者等を委員に追加
- ・公共施設や個人住宅等への屋根置き太陽光パネル設置実績がある事業者等を委員に追加
- ・バイオコックスは、岐阜県が中心となって、活発な議論が進んでおり、高山市にとっても活用可能性を検討するため、事業者等を委員に追加
- ・ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）やZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）に詳しい建築士等を委員に追加

■令和8年度 第2回検討委員会について

＜勉強会＞

- ・専門家によるバイオコックス勉強会

＜現地視察（候補地）＞

- ・バイオコックス（下呂市小坂町落合）（AEJ 株式会社）
- ・中尾地熱発電所（高山市奥飛騨温泉郷）（株式会社 シーエナジー）
- ・木質バイオマス熱電併給設備（高山市江名子町）（株式会社 井上工務店）
- ・阿多野郷小水力発電所（高山市高根町）（阿多野郷・野麦小水力発電株式会社）
- ・野麦小水力発電所（高山市高根町）（阿多野郷・野麦小水力発電株式会社）
- ・塩屋小水力発電所（高山市塩屋町）（塩屋小水力発電株式会社）
- ・朴の木平スキー場湧水小水力発電所（高山市丹生川町）（飛騨高山小水力発電株式会社）
- ・六方谷小水力発電所（高山市清見町）（井上小水力発電株式会社）

7 議 会 第 1 3 号

令和 7 年 4 月 1 8 日

高山市長 田中 明 様

高山市議会

議長 渡辺 甚一

政策提言について

高山市議会基本条例第 2 条及び第 1 2 条の規定により、下記のとおり提言する。

記

1. 森林・環境資源を基軸とした産業構造の高度化との連動性と、共生を意識した地域づくりについて

森林や環境を基軸とした産業構造の高度化を達成するためには、相互に補完し合う三つの視点から、地域社会全体の協力と発展を促進することが重要である。すなわち、施策間連携を促す産学官金労言士による連携体制の強化、脱炭素の取組みを後押しする市民意識の醸成、そして地域間連携を深化させる再生可能エネルギー事業を基軸とした地域循環型社会の実現である。

これらの取組を通じて、共生を意識した地域版 G X（グリーントランスフォーメーション）の推進を図り、最終的には「住んでよし、訪れてよし」という飛騨高山らしい地方創生の姿を体現する、持続可能な社会の構築を目指すべきである。

よって、森林資源や地域資源を最大限に活用しながら、地域内外の多様な主体が連携し、G X と地方創生の好循環を実現するため、以下のとおり提言する。

- (1) 環境保全に加え環境活用を見据えた産業構造の高度化との連動性を意識した「産学官金労言士」（産業界、学术界、行政、金融機関、労働組合、言論界、士業）等による連携体制の強化
- (2) 森林や環境に対する意識の醸成を高め、市民との一体感を強化し、地域への還元策を推進する地域版 G X の仕組みづくりの構築
- (3) 再エネ事業を基軸とした地域循環型社会の実現